

人間にとって森林とは何か

～持続可能な森林について考える～

1. 両者を巡る二つの価値観(視点)

- ① 経済的・公益的(数値的)価値(視点)：木材生産、治山・治水機能、環境保全機能など
- ② 文化的・情緒的(非数値的)価値(視点)：文化的・宗教的視点、風景、休養的機能など

2. 森林観の国際比較研究から

- ① 日本：観念的な森林観＝知識(情報)に基づいている。
- ② 西ドイツ：理念的な森林観＝体験によって裏付けられている。
- ③ フィンランド：体験に基づく森林観＝日常的な森林との関わりに基づいている。

3. 変化する日本の森林観：情報の影響(森林意識調査から)

- ① 原生林と人工林：人工林の風景を好みつつ原生林を嗜好する矛盾
回答では原生林を嗜好しつつ、風景写真では人工林的風景を好む。
- ② 知っている木：変化の指標としての「ブナ」
東京都における回答変化：2.8%(n=499)(1984) ⇒ 38.2%(n=348)(1991)
長野県の高校生の回答変化：15.8%(n=1009)(1990) ⇒ 33.0%(n=864)(2015)
- ③ 森林維持と人手：人手に対して「拒否」から「受容」へと変容
人手を加えるべきでない(東京都)：49.7%(n=499)(1984) ⇒ 21.6%(n=348)(1991)
人手を加えるべきでない(高校生)：60.4%(n=1009)(1990) ⇒ 15.0%(n=864)(2015)

4. 持続可能な森林とは

- ① 森林を文化的創造物として全体的にとらえ、身近な存在にすること。
- ② 森林を身近にするためには、森林体験が不可欠であること。
- ③ 森林体験を促すためには、森林整備が必要であること。

5. 参考文献

- ① 菅原總(1989)：人間にとって森林とは何か；講談社ブルーバックス
「無用の用」として森林をとらえることの重要性、森林文化論を提唱
- ② 市川健夫(1984)：日本のブナ帯文化；朝倉書店
「信州学」の提唱者
- ③ 鬼頭秀一(1996)：自然保護を問いなおす；ちくま新書
「社会的リンク論」、「よそ者論」の提唱者